

# 2018年度（平成30年度）施設関係者評価結果公表シート

2018年度（平成30年度）  
学校法人 豊中キリスト教会学園  
幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園

## 1. 教育方針

キリスト教精神に基づき、自由遊びを中心とした保育と異年齢保育を大切に  
した教育・保育を行います。また、主体性と社会性等、さらに体育活動を加え  
て、心身ともに調和のとれた子どもに成長するようお願い、子どもを真ん中に置  
いた教育・保育をめざします。

## 2. 教育方針と目標を実現するための方法

1. キリスト教精神に触れ、神を愛し、人を愛し、自分を愛する心を持った子ども  
に育てます。
2. 遊び込むことを大切にされた保育の中から個が育ち、自由に自らが考えて決める  
ことに喜びを感じる子どもに成長します。その中で、主体性と創造性をもった  
子どもに成長するように導きます。
3. 異年齢保育を進めることで、他人（ひと）とのつながりを楽しみ、人から学ぶ  
心を養います。社会性と協調性、そして責任感の芽生えを促します。
4. きめ細かく配慮された環境作りを通して、乳幼児の成長と健康・安全を守る教  
育・保育を推進します。

## 3. 事業計画

<2018年（平成30年度）重点的に取り組む目標・計画>

2018年度は幼保連携型認定こども園として5年目を迎えた。初年度の2014年度  
は子どもたちの育ちを、0歳児から5歳児までの連続したものとして捉えることを  
課題とした年であったが、3・4年目はさらに各年齢による発達の特性を理解し、保  
育を進めることの重要性を再確認する年となった。

2018年度は、過去4年間の経験を踏まえ、以下の5項目を事業計画とした。

## 認定子ども園豊中愛光幼稚園

### 2018年度事業計画

#### (1) 豊中愛光幼稚園の質の向上に努める

1. 教育・保育の質の向上を目指して、幼児クラスの保育のあり方を再確認する。特に、幼児クラスの預かり保育時間（14:00～18:00）における教育・保育計画を見直し、策定する。
2. 乳幼児の長時間に及ぶ園での生活の中では、保育教諭の役割が重要になる。日常的な教育的な働きかけや、キリスト教理解に基づいた子どもたちへの関わり方が重要になることから、園の教育方針や園の展望等をより良く理解し、保育に活かせるように、研修等の機会を増やす。また、風通しの良い人間関係の中で、円滑なコミュニケーションが図れるように努める。

#### (2) 教育環境の改善と質の向上

1. 保育教諭の人員を増やし、余裕のある教育環境の充実を図る。
2. 施設面においては、安心、安全、清潔、本物に出会える環境整備を念頭に、保育室1階の収納棚の修理と家具改修、園庭に温水シャワーの設置、ログハウス・吊り橋の修理、および隣接マンションに借りている子育て支援室への家具導入、等ハード面での環境整備を行う。

#### (3) 働きやすい職場環境の整備

職員の待遇改善や労働時間の遵守、仕事に誇りが持てるように役割の明確化等、働きやすい職場環境の形成を進める。

#### (4) 計画性を持った子育て支援の実現

地域に開かれた認定こども園として、子育て相談、園庭開放や一時預かり保育（一般型）の充実、講演会などの啓発活動の推進等、園全体として子育て支援の充実に取り組む。

#### (5) 平成30年度豊中愛光幼稚園の点検評価の実施

引き続き認定こども園の役割とその在り方を確認し、子どもたちの育ちを見守る園として、保護者との相互信頼関係を保ちつつ、神と人ともに喜ばれる園作りを進める。その実績を具体的に評価し、課題を明らかにするために、施設関係者による評価を推進する。

#### 4. 事業項目の達成度評価及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
<b>(1) 豊中愛光幼稚園の質の向上に努める</b>	4	保育教諭間で、そのテーマについて、基本的な認識を確認した。
1. 教育・保育の質の向上を目指して、幼児クラスの保育のあり方を確認する。特に、幼児クラスの預かり保育時間（14:00～18:00）における教育・保育計画を見直し、策定する。	4	計画の見直しと策定について、工夫した1年であった。
2. 乳幼児の長時間に及ぶ園での生活の中では、保育教諭の役割が重要になる。日常的な教育的な働きかけや、キリスト教理解に基づいた子どもたちへの関わり方が重要になることから、園の教育方針や園の展望等をより良く理解し、保育に活かせるように、研修等の機会を増やす。また、風通しの良い人間関係の中で、円滑なコミュニケーションが図れるように努める。	4	園長・副園長を中心として、保育現場の中で、具体的に子どもたちとの関わり方を、保育教諭に伝える機会が多かった。また、年間12回の職員会議や4回の職員研修会が行われ、保育教諭の役割についての確認がなされた。
<b>(2) 教育環境の改善と質の向上</b>	4	単年度では完了せず、当年度に引き継がれて実施されることも多いが、着実に改善は進んでいる。
1. 保育教諭の人員を増やし、余裕のある教育環境の充実を図る。	3	引き続き保育教諭確保の充実に努めた。しかし、年度を通し何度も公募したが、結局新入保育教諭は2名と予定した人数は採用出来ず、引き続き次年度の課題となった。

<p>2. 施設面においては、安心、安全、清潔、本物に出会える環境整備を念頭に、保育室1階の収納棚の修理と家具改修、園庭に温水シャワーの設置、ログハウス・吊り橋の修理、および隣接マンションに借りている子育て支援室への家具導入等、ハード面での環境整備を行う。</p>	5	<p>2017年度中に改修予定だった1階保育室の個人収納棚の整理、園庭手洗い場の給湯器の設置、ウッドデッキの日よけ用屋根の設置を2018年度に実行した。また、年央の台風被害を受け、園庭の樹木を剪定や、外部設置の監視カメラの更新など、園機能を支える環境整備も行った。</p>
<p><b>(3) 働きやすい職場環境の整備</b></p>	4	<p>具体的に課題を挙げて改善する努力を続ける。</p>
<p>1. 職員の待遇改善や労働時間の遵守、仕事に誇りが持てるように役割の明確化する等、働きやすい職場環境の形成を進める。</p>	4	<p>課題はあるが、園長・副園長・主幹保育教諭間でしっかり協議されている。保育教諭が経験を重ねる中で、着実に改善されていくと考える。</p>
<p><b>(4) 計画性を持った子育て支援の実現</b></p>	4	<p>徐々に意識が向上していることから、さらに充実していくと思われる。</p>
<p>1. 地域に開かれた認定こども園として、子育て相談、園庭開放や一時預かり保育（一般型）の充実、講演会などの啓発活動の推進等、園全体として子育て支援の充実に取り組む。</p>	4	<p>園庭開放はもとより、講演会の開催等により、子育て支援に取り組むことが出来た。</p>
<p><b>(5) 平成30年度豊中愛光幼稚園の施設関係者評価の実施</b></p>	3	<p>充実した点検・評価をより計画的に進めるには改善の余地が残る。</p>

<p>引き続き認定こども園の役割とその在り方を確認し、子どもたちの育ちを見守る園として、保護者との相互信頼関係を保ちつつ、神と人ともに喜ばれる園作りを進める。その実績を具体的に評価し、課題を明らかにするために、施設関係者による評価を推進する。</p>	3	<p>園庭開放や子育て相談など、定期的なプログラムが行われていて、その役割は果たしている。しかし、PTAの会議だけでなく、定期的に保護者の意見を聞く機会を持つことが出来るようになれば、更に良い園になると考える。</p>
---	---	---

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
4	<p>2018年度の計画に対して、それぞれ取り組むことが出来た。課題はあり、更に充実させる余地はあるが、改善の方向性を園がしっかりと持っていることから、今後が期待できる。</p>

6. 4と5にある評価結果の内容

<p>5. 十分達成されている。 4. 達成されている。 3. 取り組んでいる。 2. 取り組んでいるが不十分である。 1. 取り組めてない。</p>
---

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
<p>1. 教育・保育の質の向上</p>	<p>子どもの発達段階を理解して、それぞれの年代の子どもたちの教育・保育を進めていけるように、保育教諭が研鑽を続けることが、欠かせない。</p>
<p>2. 教育環境の改善</p>	<p>保育教諭等の人員確保を今後も続け、余裕をも</p>

	って教育・保育が行われるように、教育環境の整備に努める。施設内での不備や、不足している設備等を、引き続き改善していく。
3. 職場環境の整備	教育・保育に直接関わる時間と、事前準備や教育・保育後の記録等の整理の時間を確保する等、今後も働きやすい職場環境の整備に努める。
4. 子育て支援の充実	地域で子育てする保護者に対して、園庭開放や一時預かり保育（一般型）等により、支援の向上に努める。
5. 自己点検評価の実施	点検評価項目を整備すると共に、保護者等関係者の複数の目で評価を行い、さらに充実させていく。

## 8. 学校関係者評価

<p>(1) 0歳児～5歳児までの連続した教育・保育を進める園として、保育教諭の意識がさらに醸成されている。また、保護者が園の教育方針と内容を理解し、園に対して協力的な姿勢が窺える。</p> <p>(2) 教育・保育の充実は、保育教諭等の経験の長さや質に拠るところが大きい。新規人材の獲得と既存の保育教諭に対する研修等により、今後とも人的な充実を目指して欲しい。</p> <p>(3) 日常的な保護者とのコミュニケーションを大切にしていることで、保護者会等により、園の状況や園児の様子等を報告し、今後も保護者が安心して子どもを預けられるように、情報の共有を進めて欲しい。</p> <p>(4) 保育教諭が楽しく働ける職場環境を整え、いつでも笑顔で教育・保育ができるような環境作りに引き続き心がけてほしい。</p>
--

(5) 評価されるべき事項

1. 遊び込むことを大切にされた保育の中で、個が育ち、自由に自らが考えて決めることに喜びを感じる子どもに成長している。
2. 異年齢保育から、人とのつながりを楽しみ、社会性と協調性、そして責任感が育まれていることが感じられる。

9. 財務状況

2018年5月31日、公認会計士より適正に運営されていると認められた。